

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ◆「生きる力」を育む教育活動の充実を図るとともに、生徒の個性を伸ばさせ、社会をリードする人材を育成する学校。
- 1 学習において、主体的に知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する「確かな学力」を育成する。
 - 2 生命や人権を尊重し、自然や美しいものに感動する「豊かな心」を育むとともに、たくましく生きるための「健康・体力」を保持増進する。

2 中期的目標

1 新しい時代を生き抜くための「確かな学力」の育成

- (1) 生徒一人ひとりの状況に応じた学習指導の推進
 - ア すべての教科において、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、一人ひとりの生徒が能動的に参加できるように授業の工夫を行い、今後必要とされる学力の向上をめざした授業研究・実践に取り組む。
 - イ 定期的に会議を実施し、個々の生徒の状況を共有し、課題のある生徒に対して組織的に対応する。
- (2) 自学自習習慣の確立
 - ア 自学自習習慣の確立のため、自習環境の整備・提供を行うなど学習環境の整備に努め、生徒の自ら学ぶ力を育成する。
※授業アンケート調査で、「授業内容に、興味・関心をもつことができた。」「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を令和7年度も共に全学年で80%以上を維持する。(R2 80% R3 81.5% R4 82.9%)

2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

- (1) 基本的な生活習慣の確立
 - ア 遅刻指導やマナー指導を通じ、基本的な生活習慣の向上や学校生活における規範意識の醸成を図る。
- (2) 学校行事の活性化
 - ア 生徒会や部活動・団活動のリーダーを中心に、生徒一人ひとりが協力し合い、本校の特色を活かした取り組みについて、生徒の自主的な活動を促進する。
 - イ 学校行事や生徒会活動の特別活動を通して、他者を理解し、望ましい集団活動ができる態度を育成する。
 - ウ ボランティア活動を通して、他者とかかわる喜びを実感させ、共生の意識を身につけさせる。
- (3) 体力・運動能力向上のための取組の充実
 - ア 生徒が安心・安全かつ積極的に体育・スポーツ活動に取り組むことができるようコンディショニングについてのセミナーを開催し、スポーツ障がいやコンディショニングについての生徒の意識を高める。
※学校教育自己診断で、「本校は生徒心得を守るよう適切に指導している（されている）」と「私は服装や頭髪等、生徒心得を守っている。」の「あてはまる（ややあてはまる）」の割合を令和7年度には共に全学年で85%以上にする。(R2 88.9% R3 84.9% R4 89%)

3 進路保障

- (1) キャリア教育の推進
 - ア 全ての教育活動をキャリア教育と位置づけ、基礎的・汎用的能力を育成する。効果的な指導を行うためのガイダンスなどを系統的・継続的に行う。また、教科でのキャリア教育を推進し、思考力・判断力・表現力をより重視した教育活動を進める。
- (2) 進学対策の充実
 - ア 放課後セミナー、土曜セミナー等を実施し、進路や習熟度に応じた対策を講じる。
 - イ 学年・学科・系列と協力し、一人ひとりの進路希望に則した、進路意欲向上のためのガイダンスの実施や情報発信をおこなう。
※2年生の学校教育自己診断で、「私は具体的な進路目標を持っている」の割合を令和7年度には80%以上にする。(R2 73.1% R3 72.3% R4 78.3%)
※学校教育自己診断で、「本校では進路に関する情報提供が十分に提供され、きめ細かい指導が行われている」の「あてはまる（ややあてはまる）」の割合を令和7年度には全学年で80%以上にする。(R2 74.4% R3 76.8% R4 85.4%)
※系統的な指導を継続し、生徒の学力の一層の向上に努め、第3学年当初の進路希望を令和7年度も90%以上を維持する。(R2 92% R3 94.3% R4 87%)

4 学校の組織力向上と魅力のある開かれた学校づくり

- (1) 学校運営体制の整備
 - ア 各分掌や学科・系列・教科の業務や指導内容を点検・評価を行い、校内の「見える化」をさらに進める。
 - イ 本校の将来を見据えた課題解決の方向性を示し、改善策を立案する。
- (2) 授業研究を伴う校内研修の充実
 - ア 授業力・教科指導力の向上を目的として、公開授業週間および保護者対象の授業参観を実施する。
- (3) 働き方改革
 - ア 各種業務の時間の短縮を図り、時間外勤務月80hの教職員を令和7年度には10%以下とする。(R2 18% R3 18% R4 11%)
- (4) 家庭・地域との連携の推進
 - ア 「学年だより」「進路だより」「保健だより」の発行、授業参観、PTA研修会等の実施、地域イベントへの参加などにより家庭・地域と連携した教育活動を行う。
- (5) 広報活動の充実
 - ア 生徒の学校生活や校内行事、校外活動などについて、ホームページを通じて外部に積極的に情報を発信する。
※学校教育自己診断で、「本校に入学してよかったと思っている」の「あてはまる（ややあてはまる）」の割合を全学年で令和7年度も80%以上を維持する。(R2 77.0% R3 83.0% R4 85.0%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい時代を生き抜くための「確かな学力」の育成に向け、多様な生徒に対し、生徒一人ひとりの状況に応じた学習指導を推進した。1人1台端末の配備や新学習指導要領が2学年まで拡大したこともあり、「積極的にICT機器を活用している」教員の割合は9ポイント上昇し94.7%に達した。また、「主体的・対話的で深い学びとなるような授業が常に展開できている教員」は22.1ポイント向上した94.7%に達した、今後、教科を超えて学習指導に関する実践事例を共有・研究するなど組織的に授業改善を図りたい。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題行動はほぼ生起していないが、昨年度急増した遅刻数を減少させることができなかった。校内の指導体制のさらなる見直しを図るとともに、家庭との連携を密にして、基本的な生活習慣の確立に努めたい。 生徒会役員を中心とした、生徒が主体的に学校行事を運営する態度は醸成しており、満足度は93.4%と昨年よりさらに向上した。行事を通して、豊かでたくましい人間性が育ちつつある。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校一斉定時退勤日およびノークラブデーを徹底するなど、働き方改革を推し進めたことにより、時間外在校等時間が月80時間以上の教職員は昨年度と比較し、格段に減少した。教員が生徒と過ごす時間や自らの資質・能力の向上を図る時間を確保・充実できるよう、校務のさらなる効率化や専門人材の活用等の取組みを徹底したい。 志願者確保に向け、在校生を前面に押し出したオープンスクールの開催、中学校教員や教育産業対象説明会の実施など新たな広報活動に取り組んだ。 	<p>第1回（6/7）</p> <p>○R5年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒が在籍する学校として、従前の教育を継承し効率的に取り組まれない。 生徒目線での対応を基本に、安心して安全な学校づくりに取り組まれない。 オープンスクールや出前授業等を通して、中学生に対して開かれた学校づくりをめざされたい。 中高一貫校の特性を生かし、めざす学校像について時間をかけて再構築に努められたい。 演劇科の志願者が定員を下回ったことを踏まえ、外部への情報提供と発信に努められたい。 働き方改革が全国的な社会問題になっている現状を踏まえ、教職員の健康管理に取り組まれたい。 <p>第2回（10/25）</p> <p>○R5年度学校経営計画（進捗状況）について</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人1台学習者用端末の整備に伴い、日常的にICT機器を活用した授業が展開できている。 キャリア教育の推進について、生徒のニーズに応じた各種セミナー、生徒の進路実現に向けたガイダンス等の取組みが展開できている。 働き方改革について、昨年度と比較して時間外在校等時間は減少傾向にあり、今後も生徒への関わりを充実していただくためにも、教職員一人ひとりの健康管理に取り組まれたい。 年間の遅刻数について、引き続き生徒指導をお願いするとともに、社会人としてのモラルについてもキャリア教育同様に取り組まれたい。 演劇科の志願者が定員を下回ったことを受けて、オープンスクールをはじめとする様々な広報活動に尽力されており、引き続き本校の素晴らしさを外部へ発信されたい。 <p>第3回（1/31）</p> <p>○R5年度学校経営計画及び学校評価について</p> <p>次年度、次の内容について一層の充実を図っていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> オープンスクール等、広報活動がより効果的になるよう、さらなる工夫や改善を図っていただきたい。 読書教育の充実を図り、知識の習得とともに、その評価方法について検討していただきたい。 <p>○R5年度学校教育自己診断の結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> 可能な範囲で、学科別にデータの整理とその分析をしていただきたい。 <p>○R6年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度、学科や系列のあり方等について、検討を始めていただきたい。 教育活動の質の維持と向上、働き方改革の双方を両立させる形で、学校経営に取り組んでいただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 新しい時代を生き抜くための「確かな学力」の育成	(1) 生徒一人ひとりの状況に応じた学習指導の推進	<p>(1)</p> <p>ア 主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、一人ひとりの生徒が能動的に参加できるようにアクティブラーニング型手法を取り入れた授業を行い、今後必要とされる確かな学力の育成と授業改善に取り組む。</p> <p>イ 授業へのICT機器の効果的な活用を進め、一斉学習、個別学習及び協同学習を組み合わせた教育実践に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教職員用学校教育自己診断で、「主体的・対話的で深い学びとなるよう、一方的な講義形式ではない授業形式など授業を工夫している」教員の割合を75%以上とする。[70%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート調査で、「授業内容に、興味・関心をもつことができた。」の割合を全学年で80%以上にする。[82.1%] 「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」の肯定率を全学年で80%以上にする。[83.7%] <p>イ・校内で1人1台端末に関する研修を2回実施する。[1回]</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員用学校教育 	<p>ア・ほぼすべての教員がICT機器を活用し、授業を行っており、本格的にアクティブラーニング型手法を取り入れている割合は92.1%に上昇した。次年度は専門人材の活用等さらに組織的な取組みを推進し、確かな学力の育成をめざしたい。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート結果において、興味・関心の肯定率は84.3%であった。(○) 授業アンケート結果において、知識・技能の肯定率は84.3%であった。(○) <p>※DXハイスクールの指定をめざし、文理横断的な探究的な学び、高大接続の強化につなげたい。</p> <p>イ・校内研修を2回実施した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用して授業を行っている教員の割合

府立咲くやこの花高等学校

	(2) 自学自習習慣の確立	(2) 学習の計画を明確にし、提示することにより、各授業時間・単元ごとの課題と評価を整理して、生徒の学習サイクルの確立および自主学習の習慣化を促す。また、自習場所を提供するなどソフト・ハード両面から学習環境を整える。	自己診断で、「授業において積極的に ICT 機器の活用を行っている」教員の割合を 75% 以上を維持する。 [89.4%] (2) 生徒の自学自習習慣確立のため、土曜セミナー（自習スペース開放）を年間 10 回程度実施する。[9回]	は 94.7% となり、すべての教科で積極的に取り組んでいる。(◎) ・土曜セミナーは定期考査毎に 5 回実施した。大阪大学および大阪教育大学と連携し、大学生の学習ボランティアを活用および学習支援クラウドサービスを活用することで、教員の負担軽減と自学自習習慣の確立を図った。(△)
2 豊かであぐましい人間性のはぐみ	(1) 基本的な生活習慣の確立	(1) 挨拶運動や日々の遅刻指導等を通じて、基本的な生活習慣の確立や規範意識の醸成を図る。 ・カウンセリングシートを用いた原因分析 ・遅刻防止週間の設定 ・早朝登校の実施	(1) 年間の遅刻数を 1,000 件以下とする。[約 2,000 件]	・昨年度、遅刻数が激増したため、毎朝正門での登校指導に加え、遅刻防止週間の設定や早朝登校等の対策を講じたが、効果はあまりなく 2,740 件となった。次年度は家庭との連携をさらに深め少しでも減少させたい。(△)
	(2) 学校行事の活性化	(2) 学校行事や生徒会活動等の特別活動を通して、他者を理解し、望ましい集団活動ができる態度を育成する。また、ボランティア活動を通して、他者とかかわる喜びを実感させ、共生の意識を身につけさせる。	(2) 体育祭・文化祭後の生徒アンケートで肯定的回答を 85% 以上とする。[92.5%] ・ボランティア活動として、校内自主清掃活動や地域清掃活動に参加した生徒の数を 50 名以上を維持する。[146 名]	・満足度は 93.4% であった。今後も生徒主体の行事運営を続けたい。(○) ・働き方改革に配慮し、早朝に実施していた清掃ボランティアの見直しで総数は減少したが、さまざまな取組みに 72 名が参加した。(○)
	(3) 体力・運動能力向上のための取組の充実	(3) 事故を防止し、生徒が安心・安全かつ積極的に体育・スポーツ活動に取り組むことができるように運動部の部員を中心にコンディショニングについてのセミナーを開催する。	(3) 運動部の部員に対して年 1 回以上コンディショニングについてのセミナーを開催する。 ・セミナー参加生徒の満足度を 80% 以上を維持する。[96%]	・セミナーは 7 月に 1 回開催し、救急救命処置や熱中症予防について最新の知識と技術を学んだ。(○) ・満足度は 92.9% であった。次年度以降も、運動能力や競技力向上だけでなく、安全にスポーツに取り組めるように熱中症対策ガイドライン等により適切に対応したい。(○)

府立咲くやこの花高等学校

3 進路保障	<p>(1) キャリア教育の推進</p> <p>(2) 進学対策の充実</p>	<p>(1) 全ての教育活動をキャリア教育と位置づけ、基礎的・汎用的能力を育成するとともに、主体的・対話的で深い学びを実践する力の育成をめざして系統的・継続的なガイダンスを行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒のニーズに的確に対応するため、放課後セミナー、夏期集中セミナー、冬期集セミナーなどの各種セミナーを実施し、進路や習熟度に応じた対策を講じる。</p> <p>イ 生徒個々の進路希望に則した、進路意欲向上のためのガイダンスを担当団と各分掌の連携のもと実施し、生徒の進路実現に向けた情報発信を継続的にこなす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学教員による進路ガイダンス ・大学教員による出前講義や実技講習 ・学科、系列ごとの大学訪問 	<p>(1) ガイダンスや進路学習など学年の状況や実態に応じたキャリアガイダンスや進路ガイダンスを各学年とも学期に1回以上実施する。[1年4回、2年3回、3年1回](キャリアガイダンスのみの数値)</p> <p>(2)</p> <p>ア 放課後セミナーの講座数を30講座程度開講する。[29講座]</p> <p>イ 学習支援クラウドサービスを活用した生徒、保護者向けの進路情報の発信を月1回以上実施する。[12回]</p> <p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の学校教育自己診断「私は具体的な進路目標を持っている」の割合を75%以上を維持する。[78.3%] ・3学期の生徒・保護者アンケート調査「本校では進路に関する情報提供が十分に提供され、きめ細かい指導が行われている」の肯定率を全学年で80%以上を維持する。[85.4%] ・第3学年当初の進路希望を85%以上実現する。[87%] 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアガイダンスと進路講話を合わせて、1年6回、2年15回、3年20回実施した。今後も全ての教育活動をキャリア教育とした位置づけで臨みたい。(○) <p>ア・働き方改革の一環で、セミナーの中心を放課後から長期休業中に移行し、集中的に実施した。また、学習支援クラウドサービスを効果的に活用した。講座数は26講座。(○)</p> <p>イ・進路だよりを12回発行することを中心に、保護者への情報提供に努めた。(○)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な進路目標を持っている生徒の割合は69.2%であった。減少に転じた原因を分析し、改善を図りたい。(△) ・保護者の進路に関する肯定率は84.5%であった。(○) ・希望進路実現率90%であった。今後も生徒の進路実現に向け、家庭と十分な連携を取るよう努めたい。(○)
-----------	---	---	--	---

府立咲くやこの花高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 学校の組織力向上と魅力のある開かれた学校づくり</p>	<p>(1) 学校運営体制の整備</p> <p>(2) 授業研究を伴う校内研修の充実</p> <p>(3) 働き方改革</p> <p>(4) 家庭・地域との連携の推進</p> <p>(5) 広報活動の充実</p>	<p>(1) ア 校務運営の一層の充実を図るため、各分掌や学科・系列・教科の業務や指導内容について点検・評価を行い、校務運営の「見える化」と「効率化」を進める。</p> <p>イ 本校を取り巻く課題を検討し、教育活動を体系化・継続化するため、将来構想検討委員会を定期的に開催し、スクール・ポリシー（案）の策定をめざす。</p> <p>(2) 教職員間での公開授業週間および保護者対象の授業参観を実施することを通じて授業力・教科指導力の向上をめざす。</p> <p>(3) 業務分担の見直しや適正化等を通じて、各種業務の時間の短縮を図り、教職員の時間外勤務の縮減を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退勤日の設定 ・ ノークラブデーの徹底 ・ 保護者配付資料や会議資料のペーパーレス化推進 <p>(4) 開かれた学校づくりのため、「学年だより」「進路だより」「保健だより」等の発行や教職員・PTA 合同の研修会等の実施、生徒の地域イベントへの参加などに取組み、家庭・地域と連携した教育活動を充実させる。</p> <p>(5) ホームページの更新を通じて積極的に学校に関する情報を発信し、学校の魅力を外部に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの全面リニューアル ・ 生徒主体の学校説明会や体験入学の運営 ・ 中学校 PTA 対象学校見学会の実施 	<p>(1) ア・イ 校務運営の在り方も検討する将来構想検討委員会を年間 5 回以上開催する。[4回]</p> <p>(2) ・ 公開授業週間、保護者対象授業参観をそれぞれ年 2 回以上実施する。[公開授業週間 2 回、保護者対象授業参観 1 回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業週間で教員向けアンケートを実施し、アンケート結果を自らの授業改善に生かすことが出来た教員の数を 70% とする。[79%] <p>(3) ・ 時間外在校等時間月 80 時間以上の教職員数 10% 以下をめざす。[11%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会議の 70% 以上を開催時間 50 分以内とする。[58%] <p>(4) ・ 各通信を各学期 1 回以上発行する、[学年 1 年 12 回、2 年 6 回、3 年 12 回、進路だより 12 回、保健だより 12 回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員・PTA の合同研修会を 1 回以上実施する。[1 回] ・ 地域で開催される地域イベント等に生徒が参加することができたか。[2 回] <p>(5) ホームページにおいて、様々な取組について 150 回以上の更新を実施する。[187 回]</p> <p>(1)・(2)・(3)・(4)、(5) 学校教育自己診断「本校に入学してよかったと思っている」の肯定率を全学年で 80% 以上を維持する。[85%]</p>	<p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来構想検討委員会を 5 回開催。スクール・ポリシー（案）策定を中心に活発な議論がなされた。(○) <p>・ 公開授業週間を 2 回実施、授業参観を 2 回実施。(○)</p> <p>・ 肯定率は 71.4% であった。(○)</p> <p>・ 保護者配付資料のデータ配信、全校一斉定時退勤日とノークラブデーの徹底を図るなど対策を講じ、時間外在校等時間が月 80 時間以上の教職員の割合は 7.6% となった。(○)</p> <p>・ 73.7% が 50 分以内に終了できた。(○)</p> <p>※会議資料のペーパーレス化推進に向け、統合 ICT の早期更新が望まれる。</p> <p>・ 学年だよりは 1 年 4 回、2 年 12 回、3 年 6 回、進路だより 12 回、保健だより 10 回、図書通信 12 回発行した。(○)</p> <p>・ 人権に関するテーマで 1 回合同研修会を開催。(○)</p> <p>・ 演劇科が地域福祉協議会の会合で歌唱と舞踊を披露、総合学科が JR ガード下の壁画、イオンの新聞広告を制作した。今後も地域との連携をさらに強化していきたい。(○)</p> <p>・ 178 回更新し、情報発信に努めた。ホームページのレイアウトの見直しの完成や SNS の活用等、対象者を明確にした、より効果的な情報発信を徹底したい。(○)</p> <p>・ 生徒の学校に対する満足度の割合は 85.5% であった。志願者確保およびミスマッチによる転退学を減少させるためにも、本校の特色ある教育内容が正しく伝わるように工夫したい。(○)</p>
--	--	---	---	---